

和製英語の形態分類¹⁾

田 辺 洋 二

キーワード

和製英語, カタカナ英語, 外来語, 分類, 形態

1. 和製英語の形態研究について

本稿の目的は、和製英語の形態をいくつかの特性を基に分類を試みることにある。和製英語の形態については、英語の語頭や語尾が脱落するか、発音が変わるといったような一般的な記述はあるが、詳細な分類は意外に少ない。しかし、その中で着実な研究は続けられている。例えば、加島祥造氏の『ジャパングリッシュ』(1981)では外来語から英語の学習への道をさぐり、石綿敏雄氏の『外来語と英語の谷間』(1983)では、和製複合語を扱い、形態と意味から体系的な構造を組み立て、また同年出版の石野博史氏の『現代外来語考』(1983)では、さまざまな角度から膨大なカタカナ語のデータを提供している。その他に、研究書や著述は日を追って増えているが、主流は辞書とか意味や原語とのずれなどを解説するものが多く、形態の研究はかならずしも多いとは言えない。

形態分類の研究が少ない一つの理由に、和製英語は誤用の「英語」だという先入観がある。日本語式に訛った英語とも見なされる。そのためか、和製英語は、日本語としてはあまり研究の対象にされず、「誤用」「間違い」「ずれ」「滑稽なもの」といった、英語としての観点からだけ捉えられ

1) 本稿は昭和63年度及び1989年度の早稲田大学特定課題研究助成費による「和製英語の形態及びその意味構造に関する研究」の研究成果の一部として発表するものである。本研究では形態と意味の構造について調査を行うが、本稿ではその一部として形態分類についてのみ、その結果を示す。

る場合が多い。

和製英語を英語と認定すれば、英語の範疇内で観察されるので、誤用とか一異型の英語としか現れそうもない。しかし、日本語と認定すれば、日本語全体の体系の中で表記体系を持った外来語的な日本語となる。本稿では、形態の変容を観察するために、英語の形態を単語と複合語を判定する基準とはするが、和製英語を日本語として扱うものである。

和製英語とは、主として原語が英語で、片仮名で表記される日本語のことである。カタカナ英語とも言う。日本で日本人によって造語された単語や語句、また原語とは著しく発音の変わってしまった英語、あるいは、日本語を英語に擬したものなどが含まれる。

外来語研究は決して新しい研究分野ではない。昭和56年には、1932年から1938年まで出版された『季刊、外来語研究』が、また昭和57年には荒川惣兵衛の *Japanized English* (『日本語となった英語』, 1931) が、さらに上田万年ほか4名による『日本外来語辞典』(1915) が復刻されたが、これは外来語研究の歴史を如実に物語る。いずれも優れた研究ではあるが、意味の解説と、誤用を中心に説くもので、形態を扱うものは少ない。

「和製英語」というより「外来語としての英語」の研究は楳垣実編『外来語辞典』(東京堂, 1966, 増補版1971) にそれまでの研究の集積結果を見ることができる。そこでは、全体的に、1) 音の変化 2) 意義の変化 3) 文法の変化の3点に集約している。この方法による和製英語の観察は、多くの研究者によって、現代もなお引き継がれていると言えよう。

2. 本調査の資料とその使用について

和製英語の形態を分析するために、次に掲げる資料を用いた。摘出した語はすべてコンピュータに入力し、特性によって電算処理した²⁾。単語については、和製の特徴の強いものだけを拾い、複合語については和製英語

2) 本調査のコンピュータ処理については、本学教育学部教務補助の高野由美子さんから多大の協力を得た。心から感謝の意を表する。

と表示のあるものをすべて摘出した。入力過程で各語の意味特性をできるだけ添え書きし、分類の経済化を行う手だてとした。また、最近の雑誌、新聞、掲示などからも収集した。

辞書によっては数万語に及ぶ外来語を記載するものがあるが、本調査では、原形が単語、2個以上の単語からなる複合語、またフレーズ及びセンテンスになるもの、合計2191語を扱った。数的に小さいのは、その中から「和製」と表示されているもののみを摘出したからである。中にはすでに英語の単語として確立している和製英語があったり、徐々に廃れて今はあまり耳にしないものもあるが、いずれも次の資料を軸に収集した。

- 1) 榎垣実編『外来語辞典』、東京堂、昭和41年(1966)。
 - 2) 日本英語教育協会編『現代カタカナ語辞典』(受験、就職、日常生活に役立つ)、1982。
 - 3) 堀内克明「マスコミに出る外来語・略語・総解説」『現代用語の基礎知識』、自由国民社、1983版、1986版、1988版。
 - 4) 日本英語教育協会編『現代カタカナ語辞典』(生活、スポーツ、レジャー編)、1983。
 - 5) 日本英語教育協会編『現代カタカナ語辞典』(時事国際、科学技術編)、1983。
 - 6) 小島義郎、竹林滋『ライトハウス和英辞典』、研究社、1984。(「和製英語」の項)
 - 7) 『コンサイス外来語辞典(第4版)』、三省堂、1987。
 - 8) 渡辺薫、奥津文夫監修『最新情報語辞典』、永岡書店、昭和62年(1987)。
 - 9) GAKKEN『カタカナ新語辞典』、1986。
 - 10) 加島祥造、山本千之、坂田俊策『カタカナ英語辞典』研究社、1987。
 - 11) 田辺洋二「日・英外来語の形態と性格」『英語表現研究』(創刊号)、1984。
 - 12) ——『カタカナ英語考』、JACET 第110回月例研究会資料、1987, 3, 28。
 - 13) ——「ここがちがうカタカナ英語とホンモノ英語」『The English Journal』、1983, 6。
 - 14) ——「間違いだらけのカタカナ英語・和製英語」『The English Journal』、1986, 12。
 - 15) ——「カタカナ英語・和製英語」『英語教育』大修館、1986, 12。
- このほかに、街から拾った語句で和製英語と判断されたときは追加した。

3. 形態を作る特性の諸相

形態の分類を単一の基準で行うのはほとんど不可能であろう。それは語句自体に異なるいくつかの特性が含まれているからである。和製英語は意味と形態の多様な組合せで出来ている。

例えば、デパートという和製英語には少なくとも次のような異なる特性が含まれている。

- 1) 発音が depart とは違い、日本語化している。
- 2) 複合語 department store の後部省略である。
- 3) 英語では depart は動詞で、意味も違う。
- 4) department が持つ意味のうち、特定の意味に固定している。(意味の特殊化)

3.1 形態分類と意味分類

形態の分類といえども、語句の意味を判定するため、意味を考慮する必要がある。例えば、同義型と異義型は、意味に関わる特性であるが、和製英語の形態分類には必要である。帰化型や混種型なども、意味の関与から逃れることはできない。英語または英語らしい語句を日本語として使うという特殊性から意味の確認が必要である。同義型、異義型などの特性を設定したのはこのためである。

例えば、パイラー「ぼんびき」では、もともとの語パイラ (pilot)「水先案内人」からの意味分析が必要になる。たとえ「パイラーは単にパイラに語尾「ー」が付いたもの」と規定しても、その形態の推移を知るには、やはり意味の検討が必要である。

3.2 形態の多様性

形態の分類の組み立てについては 5.2 で述べるが、単に前省略、中省略、後省略と言っても、その内容はさまざまである。この多様な形態をどこまで単純化し、一般化するかが問題になる。本調査では具体的に次に掲げる特性によってまとめた。

3.2.1 単語と複合語

和製英語の各語は日本語としては単語であるが、その意味を原語によって調べると、単語から直接導入された語と複合語から省略などによって間接的に導入された語とがある。アクセス (access), アポイント (appoint [ment]) などは前者の単語で、ハンスト (hun[ger] st[rike]) や、クラシック (classic[al] [music]) などは後者の複合語³⁾である。

また、単語型と複合語型の他に、オンザロック (on the rocks) やカメヤ (Come here.) のようなフレーズ型とセンテンス型とが考えられるが、小数のため複合語の下位特性とした。これらは原型が必ずしも名詞ではない。

単語にはアンバランスのように類推から接頭辞を付けたり、マンガチックのように接尾辞を持つものがある。またマイコン (microcomputer) のようにあたかも複合語のような感じの語もある。これらを記号として単語型と複合語型と呼ぶ。

3.2.2 同義と異義

和製英語を発音したとき、おおよそ英語として知覚でき、そのスペリングが想起できるものがある。そのような語のうち、英語とほぼ同じ意味で通用するものを同義と呼ぶ。一方、英語として通用しないと思われるものを異義と呼ぶ⁴⁾。したがって、アドバイス (advice) のように音節の高低や強弱が異なったり、リコメンデーション (recommendation) の「リ」のように、母音の発音が英語としての発音とは異なる場合でも同義とした。ロコ (local) やパイラ (pilot) などのように、日本人の発音で英語のスペリ

3) 複合語とは、英語の sleeping car (N+N) に見る名詞合成語 (compound words) ばかりでなく、sleeping baby (Adj+N) に見る形容詞句の場合を含む。また、3語以上の複合語やフレーズや文の場合は複合語の下位特性とした。フレーズ型には前置詞句や名詞+and+名詞のような型があり、(N+N) と (Adj+N) の語句とは区別される。なお、センテンス型は文字通り文の場合である。

4) 英語として知覚できるかできないか、また同義であるか異義であるかは、個人によってかなり異なる。本調査では、native speaker の個人的な判断と共に、辞書による調査によって決定した。

ングが想起できなかったり、カラ (carat) やトイレ (toilet) などのようにスペリングの一部を欠くものは異義とした。

和製英語では、ある意味ですべての語が異義であるとも言える。それは片仮名表記の上、意味の特殊化が行われているからである。例えば、スマートでは「身だしなみやスタイルがいい」という意味に限定され、英語本来の smart にある意味を全部含むわけではない。しかし、その一方で、テレコのように物の名前では完全に同義の場合もあるので、同義と異義を分けた。記号として同義型と異義型と呼ぶ。

3.2.3 完全形と省略形

完全形型はゴージャス (gorgeous), ゴーサイン (go sign) のように、英語をそのまま片仮名に置き換えた語。一方、省略語型はテレコ (ta[pe]re-cor[der]) やスニーカー (sneaker[s]), コーンビーフ (corn[ed] beef) のように、原語である英語のスペリングの一部が省略されている語である。

完全形の場合でも片仮名で書かれ、日本語として使われる場合は日本語である。省略形とは語頭、語尾、語、語句などの全ての形の省略を含む。省略はその内容が極めて多様である。語の前・中・後部の省略をはじめ、接頭辞や接尾辞を付けたり、混種語、かばん語などを作ったりする。省略形の中では、かばん語型と頭字語型は特徴的な造語力を持つ。これらを記号としては完全形型と省略形型と呼ぶ。

3.2.4 音声借用と文字借用

音声借用は英語を音声で理解した語で、明治時代の船員言葉やその後の舶来文化を反映する語が多い。フラノ (flannel), プリン (pudding), メンチ (mince) などがある⁵⁾。

一方、文字借用はスペリングを読むことによって、元来の英語としての発音を離れてしまった語である。アイブロウ (eyebrow) は英語としては

5) flannel /flænəl/ の /-nəl/ は、歯茎調音のため、実際は [nɫ] であり、聴覚的には「ノ」となる。pudding /púdiŋ/ の /d/ は弾音 (flap) のため「リ」となる。mince /mins/ は、特にアメリカ英語では /ns/ は中間に [t] が発生し [nts] となり、聴覚的には「チ」「ツ」のように破擦音化する。

「アイブラウ」が、リファレンス (reference) は「レファレンス」が元来の英語の発音に近い。

大正時代及び昭和時代には文字から入ったものが多い。明治のパイラは昭和のパイロットになる。中にはページェントのように、音声からの借用か文字からの借用かよく判定できない場合もある⁶⁾。これらを記号としては音声借用型と文字借用型と呼ぶ。

3.2.5 品詞の転換： 帰化

外来語のほとんどは物の名前あるいは名詞として導入される。英語の場合は名詞の動詞化や動詞の名詞化などが比換的簡単に行われ、その語の文中の位置によって品詞が決まるが、日本語の場合は品詞の転換はほとんどない。それはクリーン (clean) は「クリーンな」と「な」を補って形容動詞になり、また、本来は動詞のドライブ (drive) は「ドライブする」と「する」を補って、はじめて日本語としての動詞になることを考えても理解できるところである。

その中でトラブる (trouble), アジる (agitation), ナウい (now) などは数少ない日本語に帰化した語である。トラブるの場合は語全体を用いて動詞となり、アジるは後ろを省略して「る」を補って動詞となり、ナウいは now に「い」を補って形容詞になっている。

ダブる、トラブるなどは、「る」や「い」を補うアジる、ナウいとは違って、純粋な帰化語と解される。これらはすべて記号としては帰化型と呼ぶ。

3.2.6 混種

混種とは英語と日本語のように異質な言語が混じり合った、いわゆる hybrid を意味する。ここでは英語と日本語の混種語を混種 A 型、英語と他の外国語とは混種 B 型とした。混種 A 型にはデモる (demo[nstration])

6) pageant /pædʒənt/ は大正時代に移入した語で、聴覚的には /æ/ は次の子音が軟音のために [æ:] に近く、響きは「エー」となる。しかし、一方で、つづり字より a を「エー」と読んだ可能性もある。

＋る)のような単語型とサラ金 (sala[ry man]+金[融]) のような複合語型がある。混種 B 型にはオイローゼ (oil [Neu]rose) などがある。また、変わったものではデリ貼り (delivery) がある。一語の中で混種を作る例である。記号としてはすべてを含み混種型と呼ぶ。

3.2.7 かばん語

いわゆる portmanteau words で、ちょうど英語のかばん語 brunch が breakfast と lunch で出来たように、2 語が混交して 1 語になった語のこととである。和製英語の場合は中省略形の場合に現れ、複合語の第二要素の前半の省略がこの型を作る鍵になっている。

かばん語の形態にはさまざまな類型がある。

- a) アパーテル (apart[ment] [ho]tel)
- b) アルコロジー (歩[く]+[e]cology)
- c) カーバイト (car [Ar]beit)
- d) サブナード (sub-[prome]nade)
- e) コーポラス ([in]corpora[ted] [hou]se)
- f) モパート (mo[torcar]+[a]part[ment] [house])

a) は英語＋英語、b) は日本語＋英語(混種 A 型)の型、c) は混種 B 型、d) は接頭辞がついた単語型、e) は不規則な省略型でかばん語である。すべて中部が省略されている。f) は末尾語が省略された変則的なかばん語である。語号としては、すべてのタイプについてかばん語型と呼ぶ。

3.2.8 語頭と語尾の接辞による造語

広く人々に使われ、日常化している英語の接頭辞 (un-, anti-, techno- など)や接尾辞 (-er, -ist, -logy, -tic など)からの類推で造語するもので、英語が日本人の生活の中によく融け込んでいることを示すものである。接頭辞によるものはアンバランス (un-balance) (正しい英語では imbalance), テクノカット (technocut), 接尾辞によるものにはパイラー (pilo[t]-er), ロマンチスト (romanti[c] または romance-ist), サイノロジー (妻 のろ

い -logy), マンガチック (漫画 -tic) などがあり, その造語法は多彩である。

これらは英語の形態からの類推で形成されるものである。記号としては, 語頭型と語尾型と呼ぶ。

3.2.9 略語

和製英語ではカタカナ語をもう一度アルファベットの略語に縮めて言い直すことがよくある。シーエム (c[o]m[mercial]), ジーマーク (G[ood] [design] mark) といった英語をそのまま略語にしたものから, エッチ (H) (変態) やティーピーオー (TPO=time, place, occasion) 「時, 場所, 場合」といった日本生まれの略語まである。これらを記号としては略語型と呼ぶ。

3.2.10 置き換え

日本語をそのまま英語の語句に置き換えたもので, ハンドマネー (hand money) 「手金」, ボックスガール (box girl) 「箱入り娘」, ウォータービジネス (water business) 「水商売」といった類の語である。タイ (tie [record]) 「対(記録)」もこれに入るかもしれない。これらを記号としては置き換え型と呼ぶ。

3.2.11 倒置

あたかも隠語のように片仮名の配列を逆さまにした語である。ツンパはパンツから, グラサンはサングラス (sunglass[es]) から, ムードンコはコンドーム (condom) からできた。この単語型は二次的な造語である。オーブントースター (toaster oven) やキャンペーンセール (sale[s] campaign) もこの型とした。例はあまり多くはない。記号としては倒置型と呼ぶ。

3.2.12 頭字語

いわゆる acronym である。「国際連合」を「国連」のように頭の部分を取り上げるのと同じで, ワードプロセッサをワープロと呼ぶのに当たる。これは中省略の一形態なのであるが, 和製英語の形態のなかではかなり優勢な造語法である。複合語ばかりではなく, 単語でも複合語的な響き

を持てば、すぐに頭字語として省略をする。トラペン、コレポンといった興味深い例がある。省略形型の中の記号としては頭字語型と呼ぶ。

3.2.13 フレーズ型とセンテンス型

一種の複合語でフレーズ型ではオンザロック (on the rock[s]), エンドラン ([hit] and run) などがある。センテンス型ではホルドン (Hold on.) などがある。

3.2.14 類推：二次的な造語

和製英語はいろいろな形の類推によってできている。-er や -ist のような英語の語尾の類推もあれば、宝ジェンヌのようなパリジェンヌからの類推もある。またアンクルカモのように英語的な表現を借りながら、日本語の味を残す不思議なものもある。一般にパーソナルコンピュータがパソコンになり、それから更にパソコンチックができるとか、パンツがツンパに倒置するなど、しばしば二次的、三次的な造語になることが多い。本調査では特に、語頭型と語尾型にのみ類推の意味を残した。

4. 形態類型の例

上記の形態特性に基づいて分類された類型について典型的な例を次に掲げる。

4.1 単語型と複合語型

単語型： アクセス (access), アポイント (appointment), アイブ로우 (eyebrow), トラブる (trouble), マンガチック (漫画 -tic), アンバランス (un-balance), ロマンチスト (romantic-ist), ツンパ (pants), メリケン (American), アジる (agitation), デリ貼り (delivery), シーエム (commercial), タイ (tie), グラサン (sunglasses), ネック (bottleneck), コレポン (correspondence), アニメ (animation), エンプラ (enterprise), トラペン (transparency) など。

複合語型： ホットドッグ (hot dog), ポーチドエッグ (poached egg), ヤングタウン (young town), オーブントースター (toaster oven), コーンビーフ (corned beef), サラ金 (salaried man + 金融), アパーテル (apart-

ment house+hotel), ティーピーオー (TPO), キャンペーンセール (sales campaign), ツカガール (宝塚+girl), レティ (lemon tea), マイクロケ (mike location), ハマトラ (横浜+traditional), ワードプロ (word processor), メカトロ (mechanics+electronics), オンザロック (on the rocks), カメヤまたはカメ (Come here.)⁷⁾ など.

4.2 同義型と異義型

同義型: アルカリ (alkali), インセスト (incest), シビア (severe), ドライブ (drive), コンピュータ (computer), ドライブイン (drive-in), キープレフト (keep left) など.

異義型: サイダー (cider), サンド (sandwich), シルバー (silver), ソープ (soap), バイキング (Viking), パート (part), ヒアリング (hearing), プラスチック (plastic), マンション (mansion), ムーディ (moody), ビニールバッグ (vinyl bag), フォアボール (four balls), ヘルスセンター (health center), ワンピース (one piece) など.

4.3 完全形型と省略形型

完全形型: クリア (clear), リコメンデーション (recommendation), ダブル (double), メモる (memo+る), ナイター (night-er), タイ (tie), ムードンコ (condom), キーポイント (key points), リストアップ (list up), ピッチドアウト (pitched out), ハンドマネー (hand money) など.

省略形型: リスリン ([g]lycerine), コネ (conne[ction]), ハウス ([green] house), デモる (demo[nstration]-る), グラサン (sunglass[es]), サラリーマン (salari[ed] man), タオルケット (towel+[blan]ket), スモコロジー (smoke+[e]cology), サントラ (soun[d] tra[ck]), パラリンピック (para-[O]lympic [games]), エンドラン ([hit] and run), カメロン (Come alon[g].) など.

4.4 音声借用型と文字借用型

音声借用型: プリン (pudding), ラレシ (radish), フラノ (flannel), ラム

7) カメヤのヤを, 犬や猫を呼ぶときの「白や」「三毛や」の「や」と誤解したため, カメとなった. (『外来語辞典』より)

ネ (lemonade)⁸⁾, コーンビーフ (corned beef), メンチ (mince), ページェント (pageant), ダース (dozen), バンバイ (by and by), カメヤ (Come here.) など.

文字借用型: アローワンス (allowance), カセット (cassette), テロ (terror), アイデア (idea), スムース (smooth), ホテル (hotel), ポールモール (Pall Mall), ポリューション (pollution), マッシュドポテト (mashed potato), スモークドサーモン (smoked salmon), リザーベーション (reservation), リノベーション (renovation) など.

4.5 帰化型

サイクル (cycle), ダブる (double), トラブる (trouble), メタモる (metamorphose-る), コピる (copy-る), サボる (sabotage-る), シャワる (shower-る), セクる (sect-る), ゼロる (zero-る), ダフる (duff-る), デコる (decoration-る), デモる (demonstration-る), テロる (terror-る), ネグる (neglect-る), ハモる (harmony-る), メモる (memo-る) など.

4.6 混種型

混種 A 型: アジる (agitation+-る), アルキング (歩く+-ing), クドコロジー (口説く+-logy), マイクロテレビ (micro-+テレビ), マンガチック (漫画+-tic), アテレコ (当てる+recording), アメション (America+しょんべん), アンチ H タイプ (anti-+変態+type), ゲンギョラ (現金+guarantee), サラ金 (salaried man+金融), 財テク (財産+high tech), テクシー (てくてく+taxi), ドル箱 (dollar+箱), ピンク映画 (pink+映画), メチャニック (めちゃくちや+technique), リョテル (旅館+hotel) など.

混種 B 型: アニメージュ (animation+image), アルサロ (Arbeit+salon), オイローゼ (oil+Neurose), カーバイト (car+Arbeit), カメラルポルタージュ (camera+reportage), ゲルピン (Geld+pinch), コールテン (corduroy+velveteen), ハウスマヌカン (house+mannequin), ロックハーケン (rock+Haken) など.

8) lemonade /lèmonéid/ は、聴覚的には /è/ は [ɛ] と開口ぎみの上, /d/ は不完全破裂のため、「ラムネ」となる.

4.7 かばん語型

アパーテル (apartment+hotel), イメージメント (image+management), エネトピア (energy+Utopia), オプトメカトロニックス (optical+mechanic+electronics), カンコロジー (かん+ecology), キルケット (quilt+blanket), コンピニオン (companion+opinion), モパート (motorcar+apartment+house) など.

4.8 語頭型と語尾型

語頭型: セミダブル (semi-double), ディスインテリ (dis-intelligent), マイコン (micro-computer), マルチタレント (multi-talent), ミニカー (mini-car), ミニスーパー (mini-supermarket) など.

なお, 語頭型に用いられている英語の接頭辞は次の 16 種である.

anti-, auto-, cine-, dis-, inter-, micro-, midi-, mini-, multi-, neo-, non-, poli-, semi-, sub-, techno-, un-,

語尾型: アポインター (appoint-er), イメージフル (image-ful), シンプルाइズ (simple-ize), パソコンチック (personal computer-tic), パターン (pattern-er), ファミリゼーション (family-zation), ファンタジック (fantasy-ic) など.

なお, 語尾型に用いられている英語の接尾辞は次の 15 種である.

-al, -an, -ee, -er, -ful, -ing, -ism, -ist, -izer, -less, -logy, -ness, -tic, -topia, -zation,

4.9 略語型

エッチ (H, 変態), エル特急 (L 特急), シーエム (commercial), ジーマーク (good design mark), ジーメン (giants men), ティーピーオー (time, place, occasion), ティーピー屋 (DPE+屋), ビージー (business girl) など.

4.10 置き換え型

アイレストホワイต์ (eye rest white), ウォータービジネス (water busi-

ness), ソフトポジション (soft position), ノーズダウンロング (nose down long), ホワイトライス (white rice), ボックスガール (box girl) など.

4.11 倒置型

グラサン (sunglasses), ツンパ (pants), オープントースター (toaster oven), キャンペーンセール (sales campaign) など.

4.12 頭字語型

エンブラ (enterprise), オフコン (office computer), コマソン (commercial song), ラジカセ (radio cassette taperecorder), ワードプロ (word processor) など.

4.13 不規則型

コレポン (correspondence), トラペン (transparencey), アビリンピック (Ability Olympic Games), フライカスンマ (Friday+Focus+Emma), バーグ (hamburger steak) など.

4.14 フレーズ型

エンドラン (hit and run), オンエア (on the air), ゲームセット (game and set), サノバベ (son of a bitch) など.

4.15 センテンス型

カメ (Come here.), カメヤ (Come here.), ドンマイ (Don't mind.), ホルドン (Hold on.), レッコ (Let it go.) など.

5. 省略形型の形態類型

形態類型には完全形型と省略形型があり, その相違は 3.2.3 に示した通りである. 以下はその省略形に付いての分類である.

5.1 単語型の省略にみられる形態類型

省略形型は少なくとも次の 11 種類で, 中には, 例の見つからないものもある.

5.1.1 音声借用型

メリケン ([A]merican), ラムネ (lemona[de]) のように、音声によって和製英語となった語。語頭、語尾に省略がある。

5.1.2 帰化型

ハモる, デモるなど日本語の「る」を補うために後を略す形になる。

5.1.3 混種型

デリ貼り (delivery) はきわめておもしろい例のひとつである。語全体で delivery 「配達」の意味を出し、語の後半に漢字で日本語を置き換える。文字借用や置き換えが含まれる。

5.1.4 略語型

シーエム (c[o]m[ercial]) のように単語にも略語による省略がある。

5.1.5 置き換え型

単語型には典型的な例が見当たらないが、例えばタイ (tie [record]) などにはこれに当たる可能性がある。

5.1.6 倒置型

倒置と省略が組み合わされているものは例が少ないが、グラサン (sunglass[es]) がこれに該当しよう。-es を省略してから倒置している。

5.1.7 前省略型

チック ([cosme]tic), ネック ([bottle]neck), ハウス ([green]house) 「温室」のように元来は語の前半にある一部を省略する。

5.1.8 中省略型

語頭、語尾以外の部分の省略だが、実例はほとんどない。コレポン (corre[s]pon[dence]) があるが、これはむしろコレス+ポンデンスと2部分に認識し、複合語型の頭字語 (acronym) 型を単語型に適用した省略であろう。

5.1.9 後省略型

スニーカー (sneaker[s]), アニメ (anima[tion]), ハモる (harmony-る), ステン (stain[less]) のように元来は語の後尾にある一部を省略する。ハモ

るは, harmo[ny]) の [ny] を省略して「る」を付けた形である.

5.1.10 頭字語型

単語であるがあたかも複合語の頭部を摘みとるように頭字語型を作る.
例えば, エンプラ (en[ter]pri[se]), バンマス (ban[d]mas[ter]) などがそれに当たる. 単語の中・後省略形である.

5.1.11 不規則型

以上の他に, トラペン (tra(ns)pa(re)n(cy)) のように, 不規則に省略するものもあるが, 感覚的には, トランス+ペアレンシーと2部分に認識し, 複合語型の頭字語型に類似するものである.

5.2 複合語型の省略にみられる形態類型

複合語の分類の手順として, 複合する複数の語の省略の型を次のように調べた.

まず, 複合語を第1要素(前置語)と第2要素(後置語)に分け, 次の記号を与える.

- 第1要素(前置語)..... A
- 第2要素(後置語)..... B
- 第1要素の部分..... a
- 第2要素の部分..... b
- 語または部分の省略..... ()

上の記号と省略を示す()によって形態類型の可能性を考えれば, 次の8種類で網羅できることになる.

- | | |
|--------------|--------------|
| (1).....A | (5).....B |
| (2).....()a | (6).....()b |
| (3).....a() | (7).....b() |
| (4).....(A) | (8).....(B) |

よって, 第1要素と第2要素に関わる造語の可能性は16通りになる.

1)	(1)―(5)	A+B	完全形
2)	(1)―(6)	A+()b	中省略形
3)	(1)―(7)	A+b()	後省略形
4)	(1)―(8)	A+(B)	後省略形
5)	(2)―(5)	()a+B	前省略形
6)	(2)―(6)	()a+()b	前・中省略形
7)	(2)―(7)	()a+b()	前・後省略形
8)	(2)―(8)	()a+(B)	前・後省略形
9)	(3)―(5)	a()+B	中省略形
10)	(3)―(6)	a()+()b	中省略形
11)	(3)―(7)	a()+b()	中・後省略形
12)	(3)―(8)	a()+(B)	後省略形
13)	(4)―(5)	(A)+B	前省略形
14)	(4)―(6)	(A)+()b	前省略形
15)	(4)―(7)	(A)+b()	前・後省略形
16)	(4)―(8)	(A)+(B)	_____

以上の16類型(実際は15類型)は次のような例に見られる.

5.2.1 完全形型

類型

A+B ヤングタウン (young town) 1)

5.2.2 前省略形型

()a+B ツカガール ((宝)塚 girl) 5)

(A)+B スタンド ([gasoline] stand).....13)

(A)+()b シスコ ([San] [Fran]cisco).....14)

(A)+()b の例は1語だけである.

5.2.3 中省略形型

A+()b ポートピア (Port [U]topia)..... 2)

a()+B レティー (le[mon] tea) 9)

a()+()b バイコロジー (bi[cycle] [e]cology)10)

5.2.4 後省略形型

A+b() マイクロケ (mike loca[tion]) 3)

A+(B) ステアリング (steering [wheel])..... 4)

a()+(B) レフ (ref[lex] [camera])12)

5.2.5 前・中省略形型

()a+()b 6)

該当する例が見当たらない.

5.2.6 前・後省略形型

()a+b() ハマトラ ([横]浜 tra[ditional]) 7)

()a+(B) バーグ ([ham]burg [steak]) 8)

(A)+b()15)

(A)+b()には該当する例が見当たらない.

5.2.7 中・後省略形型(頭字語型)

a()+b() ワープロ (wor[d] pro[cessor])11)

以上の他に, 上記の例のような規則的な省略が起こらない例がいくつかある.

5.2.8 不規則形型

メカトロ (mecha[nics] [elec]tro[nics]) のように省略されるが, これは感覚的には複合語の頭字語型に類似するものである.

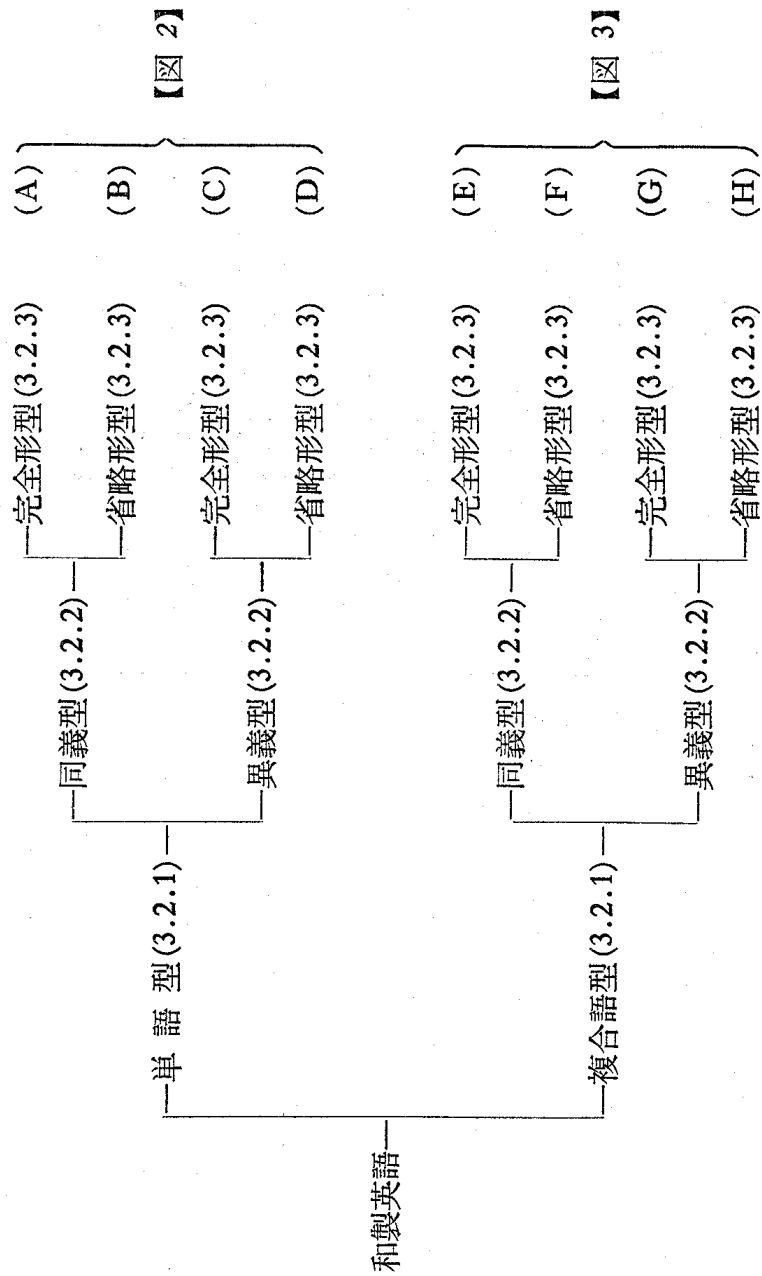
なお, 3.2.1 で触れたが, 音声借用によって省略の形態をとるフレーズ型とセンテンス型が見られる. サノバベ (son of a bi[tch]) は前者, カメヤ (Come here.), カメロン (Come along.) は後者である.

省略形型には, 以上の他に音声借用型, 帰化型, 混種型, かばん語型, 略語型, 倒置型があるが, これらの特性による分類と例についてはすでに3.2で述べた通りである.

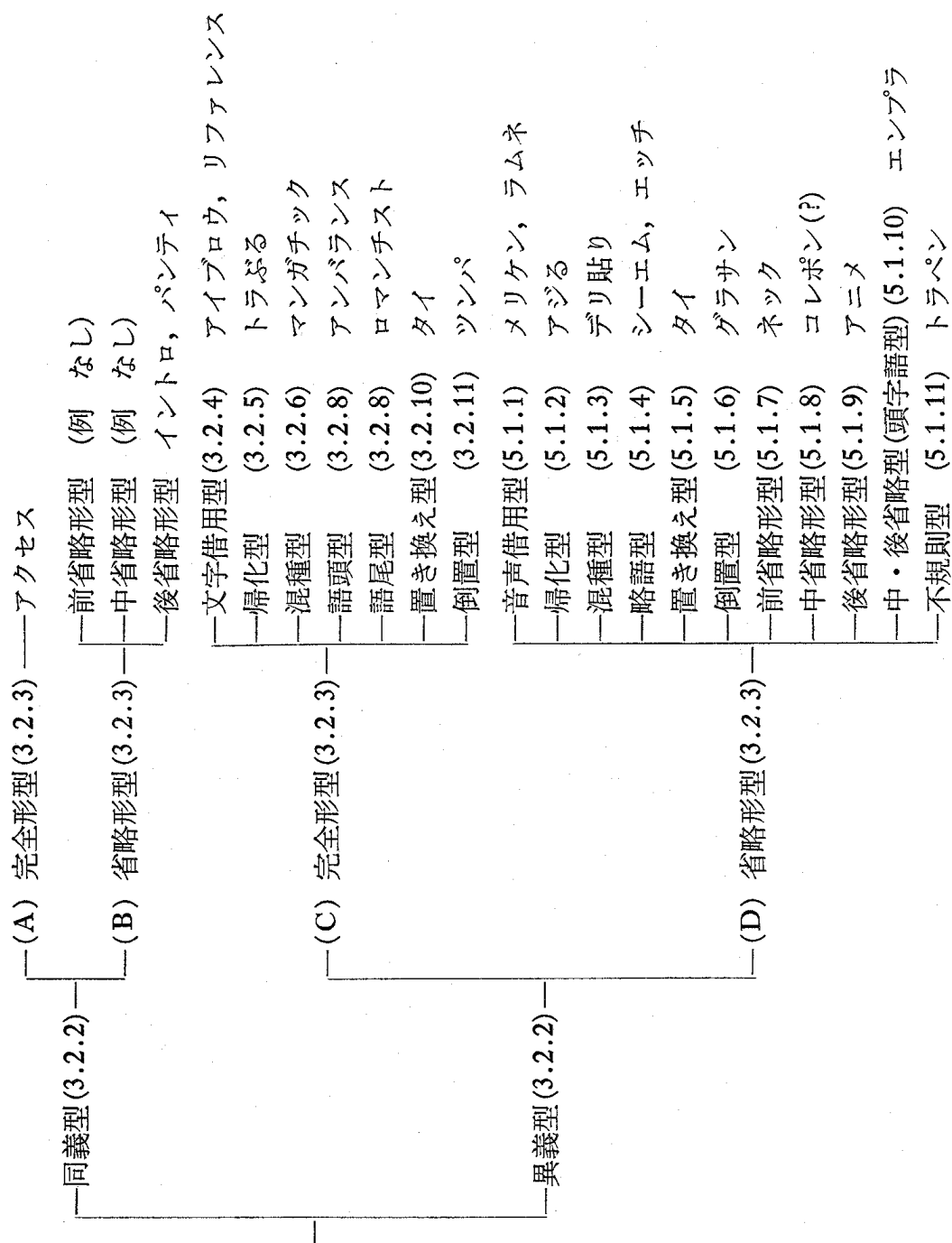
5.3 複合語の形態分類図

上記の分類手順による和製英語の分類を図に示せば次のようになる. 各類型に()の数字で付記したのは上記の項目ナンバーである.

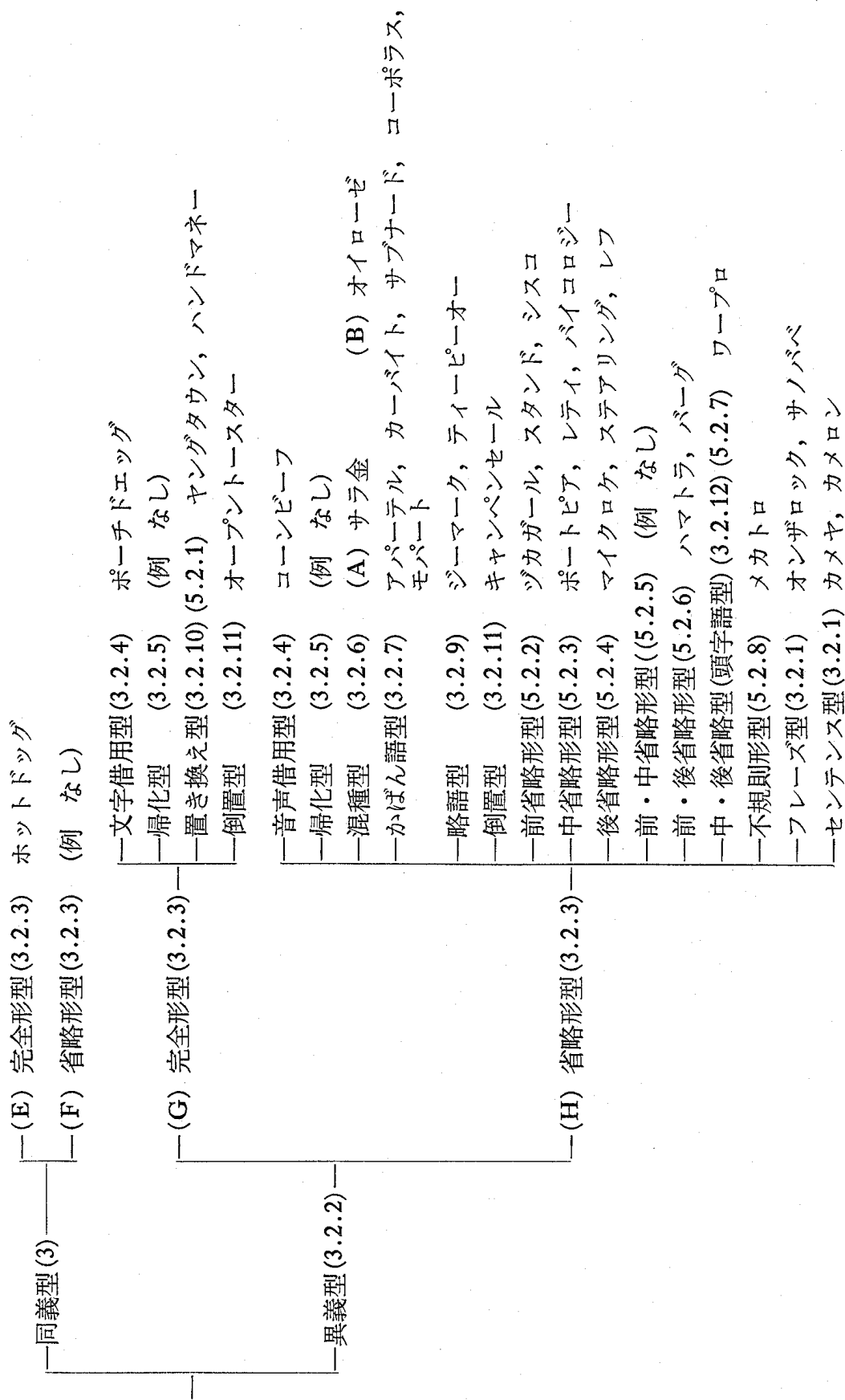
【圖 1】和製英語



【図2】単語型



【図 3】 複合語型



6. 和製英語の形態類型と本調査での語数

以下は上に示した分類類型によって得た語数の数値である。()内は語数を示し、単は単語型、複は複合語型、フはフレーズ型、セはセンテンス型を表す。

6.1 完全形型の形態類型

全体の語数(2191)

6.1.1 単語型(455)と複合語型(1721)

それに加えてフレーズ型(9)とセンテンス型(6)があるので単語以外は合計(1736)となる。

6.1.2 完全形型(1531: 単 252, 複 1273, フ 2, セ 4)と省略形型(660: 単 210, 複 441, フ 7, セ 2)

6.1.3 原語と同義型(330)と異義型(1861)

6.1.4 音声借用型(122)と文字借用型(45)

6.1.5 帰化型(23)

6.1.6 混種 A 型(99: 単 27, 複 72)と混種 B 型(79: 単 1, 複 78)

6.1.7 かばん語型(69)

6.1.8 語頭型(73)と語尾型(53)

6.1.9 略語型(16)

6.1.10 置き換え型(13)

6.1.11 倒置型(4)

6.2 省略形型の形態類型

6.2.1 単語型の省略にみられる形態類型

6.2.1.1 音声借用型(単 79, 複 34)

6.2.1.2 前省略型(単 13, 複 7)

6.2.1.3 中省略型(単 5, 複 194)

6.2.1.4 後省略型(単 177, 複 126)

6.2.1.5 頭字語型(単 15, 複 107)

6.2.1.6 不規則型(単 1, 複 16)

本調査では単語型の語を 455 語収集したが、前述の通り、和製の特徴の顕著なものだけに絞って摘出している。外来語辞典などでは、この数は何倍にも増えるはずである。

6.2.2 複合語型の省略にみられる形態類型

左端に 1), 5) のように示した数字は 5.2 に示した形態類型の番号であり、右端の () 内の数字は上と同様に語数を示す。

6.2.2.1 完全形型

1) A+B(1273)

6.2.2.2 前省略形型(7)

5) ()a+B(5)

13) (A)+B(1)

14) (A)+()b(1)

他に、スタンドマン (3 語複合語) (1)。

6.2.2.3 中省略形型(194)

2) A+()b(33)

9) a()+B(108)

10) a()+()b(40)

他に、ジーマーク (略語型)、デパートガール、タートリンピック、ハウピングショップ、ネガカラー、グラススキー、ハイソカー、プッシュホンサービス (3 語複合語) など (13)。

6.2.2.4 後省略形型(130)

3) A+b()(90)

4) A+(B)(8)

12) a()+(B)(16)

他に、メジャー、ユニオンデパート、ホワイトカラー、ルームエアコン (3 語複合語) など (16)。

6.2.2.5 前・中省略形型(0)

6) ()a+()b(0)

この型の例は見当らない。

6.2.2.6 前・後省略形型(3)

- 7) ()a+b()(2)
- 8) ()a+(B)(1)
- 15) (A)+b()(0)

第15類型の例は見当らない。

6.2.2.7 中・後省略形型=頭字語型(108)

- 11) a()+b()(90)

他に、サラ金、ワーコン、メンダイ、ラジカセ、レミコン、オプトメカトロニクス、ネガカラー、エログロナンセンス、セラコン(3語複合語)、パソコンチック(中略)、アングラマネー(語を内蔵)など(18)。

6.2.2.8 不規則形型(16)

6.2.2.9 フレーズ型(9)

6.2.2.10 センテンス型(6)

省略形型の形態類型で目だつのは、中省略、後省略、頭字語の3種である。中省略は特に、かばん語を含んでいる。次に特筆すべきもののみを記す。

- 1) かばん語型(69)が複合語省略形型(441)に占める率15.6%
- 2) かばん語型(69)が複合語中省略形型(194)に占める率35.6%
- 3) 頭字語型(107)が複合語省略形型(441)に占める率24.3%
- 4) 後省略形型(126)が複合語省略形型(441)に占める率28.6%
- 5) 後省略形型(126)のうち、第3類型(A+b())(90)が占める率
.....71.4%
- 6) 中省略形型(194)のうち、第9類型(a()+B)(108)が占める率
.....55.7%

以上の数値は和製英語の複合語型のうち、とくに省略形型の造語特徴を明瞭に示すものと言えよう。省略形型では後省略と中省略が強い造語能力を持つと言えよう。

後省略のうち、71.4% が第2要素の部分省略である。第2要素のみの全省略8語(6.3%)と較べるといかに前者の造語能力が強いかが分かる。

中省略のうち、55.7% が第1要素の部分省略である。また、中省略のうち、35.6% がかばん語であるので、中省略の多くはこれらのタイプの造語形態をとっている。

頭字語は中・後省略形である。言い換えれば、各要素の後部分の省略である。この事実と、上に述べた後省略、中省略、かばん語などの特徴を考え、併せて、前省略形型が全部で7例(1.5%)しかないことを考えれば、和製英語の造語形態が自ずから現われてくる。また、6.2.2.5 前・中省略(()a+()b)と6.2.2.6 前・後省略((A)+b())が一例もないことを考え合わせると、造語傾向に偏りがあることが分かる。

7. まとめ

本稿は、2191語の単語型及び複合語型の和製英語を収集し、特性によって分類を試みた調査の報告である。分類には、まず、1) 単語型と複合語型、2) 同義型と異義型、3) 完全形型と省略形型の3対を基本とした。次いで完全形型と省略形型の下位特性類型として音声借用、文字借用、帰化、混種、略語、語頭、語尾、などの特性を設定し、細分化した。

同義型と異義型は意味に関わる特性なので形態分類には適當ではないように見えるが、和製英語の形態分類には、帰化や混種などを含めて、意味の関与から逃れることが出来ない。また、英語及び英語らしい語句を日本語として使う特殊性からも、意味の確認が必要になる。そこで同義型と異義型という1対の特性を置いた。類推を基本とする造語の特性はすべてに見られるので特性としては省いた。語頭型と語尾型については、語に関する特性で、特に、英語の接頭辞と接尾辞との類推が明瞭である。

複合語型の中の単独の特性として、かばん語型と頭字語型を置いた。これらは、省略形型の中でも、かばん語は中省略形、頭字語型は中・後省略形に関わるもので、和製英語をつくり出す強力な動力をもつ特性である。

それに比較して前省略は非常に少ない。

なお、トラペンのように不規則ないずれの類型にも入らないものがあるが、これはあくまで英語を原語として見た場合で、感覚的には頭字語に準じるものである。だから、不自然さはない。しかし、不規則型として一類型を置くことも可能であろう。

(1989年9月16日)

参考文献

荒川惣兵衛注『日本語になった英語』

(1931年に於ける我国外来語の総記録), *Japanized English*, 研究社, 昭和6年.
(名著普及会, 昭和57年)

藤村昌男編『おとしよりのための外来語 4000』社会保健出版社, 昭和57年.

深尾凱子『カタカナことば』サイマル出版会, 1979.

外来語研究会編『季刊 外来語研究』昭和7年10月から昭和13年1月まで. (名著普及会, 昭和56年)

広永周三郎編『英語略語辞典』研究社, 昭和59年.

石野博史『現代外来語考』大修館, 1983.

石綿敏雄『外来語と英語の谷間』秋山書店, 昭和58年.

——『日本語のなかの外国語』岩波新書296, 1985.

加島祥造『ジャパングリッシュ』三天書房, 昭和56年.

小島義郎『日本語の意味 英語の意味』南雲堂, 1988.

村松明編『大辞林』三省堂, 1988.

長嶋善郎「語構成の比較」国広哲彌編集『音声と形態』, 日英語比較講座第1巻, 1980.

並木崇康『語形成』, 新英文選書第2巻, 大修館, 1985.

R. Quirk, S. Greenbaum, G. Leech, J. Svartvick: *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman, 1985.

新村出編『広辞苑』第3版, 岩波書店, 昭和58年.

田辺洋二『英語らしさと日本語らしさ』グロビュー社, 1981.

——「日・英外来語の形態と性格」日本英語表現学会『英語表現研究』(創刊号), 1984.

——「和製英語の形態と誤用 — ことばのダイナミズム —」『英語の常識百科』, 研究社, 1987.

飛田良文編著『英米外来語の世界』南雲堂, 1981.

当真洋一『雑学カタカナ語考』日本英語教育協会, 1985.

上田万年・高楠順次郎・白鳥庫吉・村上直次郎・金沢庄三郎共編『日本外来語辞典』大正4年5月, 三省堂. (名著普及会, 昭和57年)

榎垣実『増補外来語辞典』東京堂, 昭和47年.

矢崎源九郎『日本の外来語』岩波新書518, 岩波書店, 1964.

横井忠夫『外来語の誤典』自由国民社, 1978.

横佩道彦『和製英語を正す』朝日イブニングニュース社, 1982.